

ヴァイオリン アドバイザー



小山 啓久

那須塩原市出身。宇都宮短期大学附属高等学校普通科特進コース、東京音楽大学を卒業後、モスクワにてE. グラーチ氏に、東京にてK.グントナー氏に師事する。

2005年より、NHK交響楽団首席クラリネット奏者磯部周平氏らと共に木管楽器を含む室内楽曲のコンサートシリーズを開始し毎日新聞等各紙で紹介され高い評価を受ける。

2012年2月オーチャードホールでのKバレエカンパニー「シンデレラ」公演(芸術監督熊川哲也)にて「二人のヴァイオリニスト」役の一人として、舞台上での演奏・演技を担当しDVD(TBS・ポニーキャニオン)にも収録される。

2015年9月タイ王国バンコク市にてリサイタル、及びシーナカリンウィロート大学にてマスタークラスを行い、好評を博す。

2015年10月中華人民共和国、国立西安音楽大学の招聘により、同大学ホールにてリサイタルとマスタークラスを行う。

2017年10月青島広志氏の新作オペラ「サド侯爵夫人」(原作三島由紀夫)の初演にコンサートマスターとして参加。

2019年2月とちぎ未来大使に就任する。

現在、数々のオペラ・オーケストラ公演におけるコンサートマスターや内外でのソロ・室内楽での活動、マスタークラスでの指導、コンクール審査等を務めている。

日本弦楽指導者協会正会員。宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

<https://www.facebook.com/HirohisaKoyama>

1. 演奏の前に

舞台袖は本番前に最終的にコンディションを整えるスペースです。ここで会場の空気を感じながら深呼吸します。

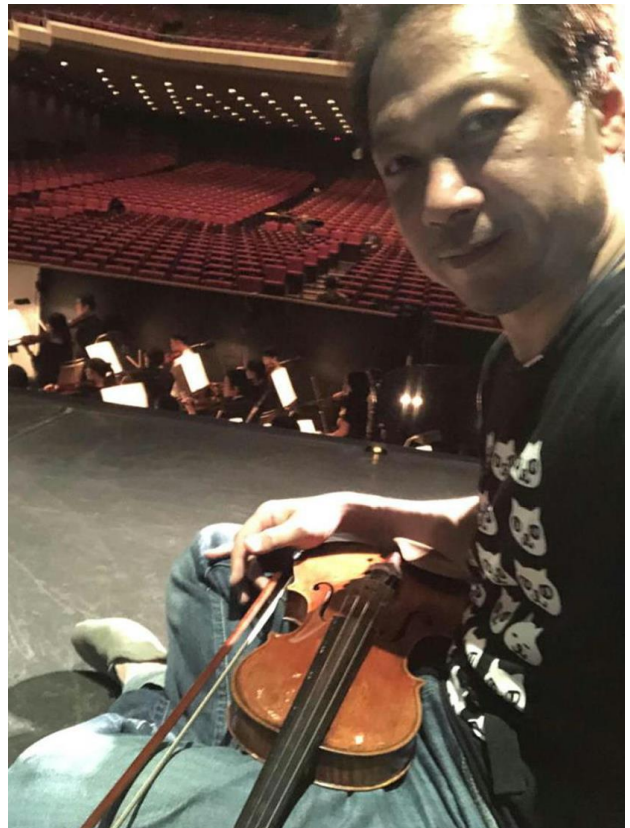
進行係の「ではお願いします」の声で背筋を伸ばして舞台への一步を踏み出します。袖から出るこの瞬間がとても大切です。

お客様の拍手の中、顔をまっすぐ上げ明るい表情で登場しましょう。立ち位置に着いたらしっかり正面を向きゆっくりとおじぎをしましょう。

2. チューニングの意味

チューニングは綺麗な音でスマートに、そして丁寧に行いましょう。

チューニングは単なる楽器の音合わせではなく、同時に自分の身体や耳も整える為の時間なのです。



Bunkamura オーチャードホールにて
K-BALLET COMPANY 「Cinderella」公演
本番直前でのリハーサル

3. 演奏開始直前の静寂の中で

演奏に入る前にしっかりと肺の二酸化炭素を出し切ってから、新鮮な酸素を取り入れましょう。

これからあなたはお客様を非日常の世界に誘わなければならないのです。集中に入る一瞬の間を大切にしましょう。

4. 想像力の翼

本番での演奏では自らのイマジネーションや詩情に身を任せ音楽の世界に没入しましょう。その為に毎日緻密な訓練を繰り返してきたのですから。

「ミスをしないように」などということは少しでも考えてはいけません。

ただひたむきに、一番後ろの客席のもっと彼方にも音を届けるイメージで演奏しましょう。

音によって紡がれた「表現」を伝えることこそが演奏芸術の存在意義なのですから。



TBS 赤坂ACTシアターにて
「良い子はみんなご褒美がもらえる」公演
本番直前

～未来に向かって～

コンサートホールや劇場は単なる建造物ではなく、芸術の家であり同時に楽器の一部でもあります。

演奏家はホールの主人として、お客様を迎え入れもてなす立場です。誇りを持って自分の最高の演奏を提供しなければなりません。日々の学び、鍛錬が試される時です。

聴衆、作曲家、共演者、そして音楽そのものへの感謝を自ら奏でる音に込め、鳴り響かせ、作品の美しさ、素晴らしさをそこに集った皆で共有する。コンサートという名の、掛け替えの無い一期一会の出会いを楽しみましょう。



杉並公会堂 大ホールにて
B.ドヴァリョーナス作曲ヴァイオリン協奏曲
日本初演でのヴァイオリン独奏 ゲネプロ中